

# 第6学年 国語科学習指導案

指導者

## 1 単元名

～命について考えよう 立松和平の世界～  
学習したことを生かして「海の命」 「山のいのち」 「街のいのち」

## 2 指導観

### こんな子どもたちだから

- 子どもたちは、1学期の学習で、一人の作者にこだわって読むことのおもしろさに触れることを経験してきている。また、シリーズものの本を続けて読んだ経験のある子が72%いる。 (意欲・関心)
- 1学期「森へ」の学習では、事例をつないでまとめの段落の意味を考えることで、筆者の見方・考え方に迫るような読み方も経験している。 (学び方)
- 聴き合い活動の中で、根拠と考えのつながりについての確な質問や確かめをすることはできるようになってきている。「命」に対する見方・考え方をテーマにして様々な学習を進めており、これまでの学習で出会った作者や人物の「命」に対する見方・考え方を比べる活動をしてきている。 (認識)

### こんな教材を使って

#### ○単元のねらい

本単元は、『命について考えよう～立松和平の世界～』という単元名のもと、『海の命』を読み、他の作品と重ねて読むことで、そこでとらえた作者の『命』に対する見方・考え方を深めること」をねらいとしている。

#### ○学習指導要領への意義

「海の命」は、海に生きる主人公太一の一生が書かれた物語である。文章構成や人物設定の意図、似たことばと比べて読む読み方に着目して、父を殺した敵であるクエと対峙し葛藤する場面や、最終的に太一が選択した生き方が書かれている場面を読むことで、高学年の作者の伝えたいことに迫る読み方を身に付けていくことができる。また、「海の命」だけの読み取りにとどまらず、そこで見付けた作者の「命」に対する見方・考え方を見直す意味で他の作品を読むことは、自分で必要な読み物を選択して読める子どもを育てる上で価値高いと考える。

#### ○テーマへの意義

立松和平の他の作品に出会い、それを重ねて読み、彼の「命」に対する見方・考え方をとらえる活動は、多様な読み・深い読みに触れることになる。さらに、作者の見方・考え方と自分のそれとを比べることは、「読むこと」を通して考える力を身に付け、豊かな学びをつくる子どもを育てる上で意義深いと考える。

### こんな手立てで (方法)

#### ○つかむ段階では

単元に入る前に、立松和平の本を準備し、自由に手にとって読むことができるようにする。そして、立松和平の「いのちの絵本シリーズ」を紹介し、「立松和平は『命』に対してどのような見方・考え方をもっているのだろう。」という学習問題をつくり、まずは、教科書にある「海の命」を読んでいく。

#### ○さぐる段階では

「海の命」を読むためのめあてをつくり、太一のしたことを全体で確かめる。そして、太一の夢・太一がクエをうたなかったこと・その後の太一の生き方・クエの呼称の変化に着目して、「海の命」の意味を考え、「海の命」で書かれている作者の「命」に対する見方・考え方について考えマップに書き、聴き合い活動を仕組んでいく。

#### ○あらわす段階では

「海の命」を読んだ後に、さらに他の作品へと読み広げていく。その後、聴き合い活動を取り入れ、自分がとらえた作者の「命」に対する見方・考え方を深めていく。最後に、ポートフォリオを活用し、作者の「命」に対する見方・考え方と自分とを比べて、豊かな学びにつなげていくようにしたい。

立松 和平

### 目指す子どもの姿

- ◎ 「海の命」や立松和平の他の作品と出会うことで、読書のおもしろさや作者の伝えたいことをとらえるために比べて読むことよさに気付こうとする。 (意欲・関心)
- ◎ 文章構成や人物設定の意図、似たことばと比べて読む読み方を通して、作者の「命」に対する見方・考え方をとらえ、そのことを聴き合うことができる。 (学び方)
- ◎ 「海の命」と立松和平の他の作品とを重ねて読み、聴き合い活動を通して彼の「命」に対する見方・考え方をとらえ、自分の「命」に対する見方・考え方を深めることができる。 (認識)

3 単元カリキュラム

国語科部テーマ  
「読むこと」を通して、考える力を育てる国語科学習

前単元

く読書の世界を深め、筆者の考えをとらえよう 星野道夫の世界  
「森へ」「大いなる旅路」

○ 教科書教材「森へ」と「大いなる旅路」を重ねて読み、筆者である星野道夫の自然に対する見方・考え方をとらえ、自分の見方・考え方を深める聴き合い活動

「命のつながり」の中に自分もいる。人と人とのつながりが大切である。

<3つの作品の共通点>  
○ 自然の命によって人間は癒されている。  
○ 最後には、人と人とのつながりが生まれている。

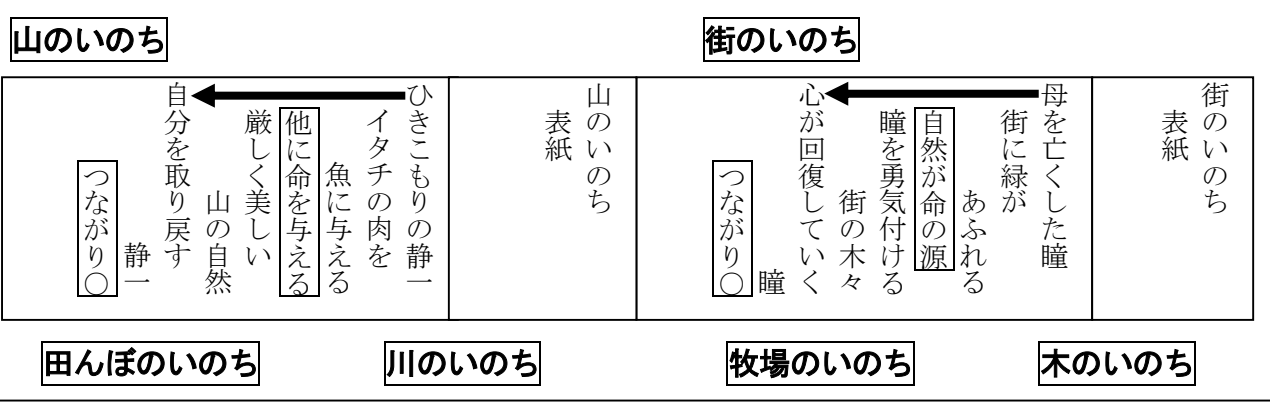
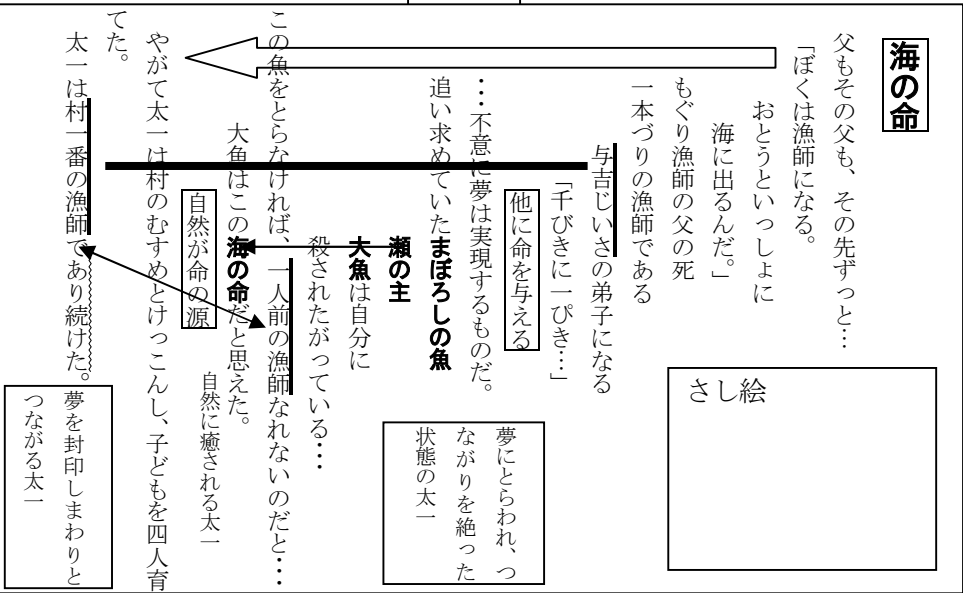
○主な聴き合い活動  
学習問題「立松和平は『命』に対してどのような見方・考え方をもっているのだろう。」について、「海の命」「山のいのち」「街のいのち」を読んで根拠をもとに聴き合い、共通点から「命のつながり」の中身についての考えを深めている。

○主なポートフォリオ評価  
これまでの学習をポートフォリオで振り返ることで、様々な人物の命の見方に気付き、はじめにもっていた自分の「命」に対する見方・考え方と立松和平の「命」に対する見方・考え方を比べて、自分の見方・考え方を深めている。

次単元

く命のつながりについて考えよう 宮沢賢治の世界  
「やまなし」「よだかの星」他

○ 教科書教材「やまなし」と宮沢賢治の他の作品を重ねて読み、作者の「命」や「生と死」に対する見方・考え方をとらえ、自分の見方・考え方を深める聴き合い活動



4 指導計画 (計10時間)

段階	主な学習活動と内容	評価規準と子どもの姿 ◇=評価規準 ・=意識	指導上の留意点と評価方法 ○=留意点 ◆=評価方法	配時
つかむ	<p>1 単元名, 題名から, 学習問題をつくる。</p> <p>(1) 作者立松和平の作品に出会い, 題名に着目する。</p> <p>(2) 「命」に対する自分の見方・考え方をマップに書き, 聴き合う。</p> <p>(3) 聴き合ったことをもとに, 学習問題をつくる。</p>	<p>・「いのちの絵本シリーズ」には, 作者の「命」に対する見方・考え方が表れていそうだな。</p> <p>◇題名やシリーズ化されていることから, 立松和平の「いのちの絵本シリーズ」に興味をもっている。</p> <p>◇これからの学習に見通しをもち, 学習問題をつくっている。</p>	<p>○単元に入る前に, 教室に立松和平の本を置いて, 自由に手にとって読むことができるようにし, 興味をもって単元にのぞむことができるよう作者について補足説明もする。 《支援⑧》</p> <p>◆自己評価カード・考えマップ・発言・ポートフォリオ分析</p>	1
	<p><b>学習問題</b>: 立松和平は「命」に対してどのような見方・考え方をもっているのだろう。</p> <p>る。</p> <p>(1) 題名について考える。</p> <p>(2) 題名とつながいで冒頭部分を読み, 主人公についてまとめ, 読みのめあてを生み出す。</p>	<p>・「海の命」の意味を考えると作者の「命」に対する見方・考え方がつながりそうだな。</p> <p>◇ 題名や冒頭部分の疑問点から, 読みのめあてを生み出している。</p>	<p><b>交流活動①</b></p> <p>●全体</p> <p>・相違点をもとに, 課題を明らかにするための聴き合い活動</p> <p>物設定や題名にある「命」ということばに着目して, 読みのめあてをつくるようにする。 《支援④⑥》</p> <p>◆発言・学習プリント分析</p>	1
さぐる	<p>&lt;読みのめあて&gt;</p> <p>・主人公太一はこれからどう生きていくのだろう。</p> <p>・立松和平は「海の命」の中で, 「命」に対してどのような見方・考え方を伝えているのだろう。</p> <p>(1) 太一のしたことを全体で確かめる。</p> <p>(2) 読みのめあての答えを考えマップに書く。</p> <p>4 読みのめあての答えを聴き合う。</p> <p>(1) グループや全体で聴き合う。</p>	<p>合って, 考えが変わったぞ。</p> <p>◇聴き合い活動を通して, 友達の読み取りやその根拠のよさに気づき, 自分の読み取りを見直している。</p>	<p>○板書を工夫し, 太一の変容とその要因となったものをとらえることができるようにする。</p> <p>◆発言・考えマップ分析</p> <p>○考えマップに叙述と根拠を分けて書かせるようにする。 《支援④⑥》</p> <p>◆自己評価カード・発言・ポートフォリオ分析</p>	1
	<p>&lt;読みのめあての答えの方向&gt;</p> <p>・太一は, 海に生きるすべてのものの命のつながりや家族を大切に, 村一番の漁師として努力し続けた。</p> <p>・作者は「海の命」で, 命がつながっているという見方・考え方を伝えている。</p> <p>・クエをうたなかつたわけ</p> <p>・「村一番の漁師であり続けた」の意味</p> <p>(3) 自分の読み取りを見直し, フリップにまとめる。</p>	<p>からだ。</p> <p>◇クエをうたなかつた理由や「村一番の漁師であり続けた」の意味を, クエの呼称の変化やその後の太一と家族の姿とつながりで考えている。</p>	<p><b>交流活動②</b></p> <p>●異質グループ, 全体</p> <p>・不十分な点を補い, 考えを整理する聴き合い活動</p> <p>番の漁師であり続けた」や, クエをうたなかつた理由を考えることができるように板書を工夫する。 《支援④⑨》</p> <p>◆発言・フリップ分析</p>	2

	<p>5 「海の命」の読みのまとめと読み方のまとめをする。</p> <p>(1) 読み取ったことと使った読み方をまとめる。</p> <p>(2) 学習問題を振り返り、他の作品を読む目的を確認する。</p>	<p>・「海の命」では、文章構成や人物設定の意図、似たことばと比べて読む読み方で太一の生き方を読んだね。</p> <p>・「海の命」でとらえた「命のつながり」の意味は何だろう。他の作品にも表れているかな。</p> <p>◇読み取ったことと使った読み方を確かめている。</p>	<p>○ポートフォリオを使って、読み取ったことと読み方を振り返ることができるようにする。 《支援③④》</p> <p>◆ポートフォリオ分析</p>	<p>1</p>
<p style="text-align: center;">あ ら わ す</p>	<p>6 自分がとらえた作者の「命」に対する見方・考え方を深めるために立松和平の他の作品を読む。</p> <p>(1) 立松和平の他の作品「山のいのち」「街のいのち」を読む。</p> <p>(2) 「海の命」で見付けた「命のつながり」の中身が、自分が読んだ作品にはどう書かれているのかを意識して、考えマップに書き、フリップをつくる。</p> <p>(3) 同じ本を読んだ者同士で聴き合う。</p> <p>7 聴き合い活動を通して、「海の命」を読んでとらえた立松和平の「命」に対する見方・考え方を深める。</p> <p>(1) 全体での聴き合いを行う。</p> <p>(2) 代表児の考えを統合して、作者の「命」に対する見方・考え方を深めている。</p>	<p>・自分の考えを深めるために、「山のいのち」「街のいのち」を読んで、根拠を増やそう。</p> <p>◇「海の命」で見付けた「命のつながり」が、「山のいのち」「街のいのち」にはどう書かれているのか、叙述に即して見付けている。</p> <p>・同じ本を読んだ人と聴き合うことで、自分が見付けていない根拠にも気付くことができたぞ。その根拠も取り入れてみよう。</p> <p>◇「山のいのち」「街のいのち」を読んで見付けた「命のつながり」の中身が「海の命」ではどのように書かれていたのか、教科書教材を振り返り、考えている。</p> <p>・「山のいのち」「街のいのち」で見付けたことが、「海の命」ではどう書かれていたのか、つながるところを探してみよう。</p> <p>・立松和平は、「命のつながり」の中に人間も含まれることや、人と人との「命のつながり」も大切に思っていることが分かったね。</p> <p>◇聴き合い活動を通して、立松和平の「命」に対する見方・考え方を深めている。</p>	<p>○「山のいのち」「街のいのち」は、子どもたちに気付かせたい作者の「命」の見方・考え方が顕著に表れた作品なので、たくさんある「いのちの絵本シリーズ」の作品の中からそれを紹介する。 《支援⑦⑧》</p> <p>◆活動の様子を観察</p> <p>○自分の考えを意識して作品を読み、根拠を増やして自分の考えに付け加えをしたり、それを強化したりすることができるようにする。 《支援①②》</p> <p>◆考えマップ・フリップ分析</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;"><b>交流活動③</b></p> <p>●同質・異質グループ、全体</p> <p>・作者の「命」に対する見方・考え方から自分の見方・考え方を深め再構成するための聴き合い活動</p> </div> <p>○事前に質問事項を把握したり、手引き等を紹介したりして、活発に聴き合い活動ができるようにする。 《支援⑤⑧》</p> <p>◆発言分析</p> <p>○板書をもとに、作品を重ねることで見いだされる立松和平の「命」に対する見方をまとめさせるようにする。 《支援④⑨》</p> <p>◆ポートフォリオ・自己評価カード分析</p> <p>○学習の流れ図やポートフォリオを使って、読みのまとめができるようにする。 《支援④》</p> <p>◆ポートフォリオ分析</p>	<p>2</p> <p style="text-align: center;">1 本 時</p>
	<p>8 単元全体を振り返る。</p> <p>(1) ポートフォリオを振り返る。</p> <p>(2) 自分の考えがどのように変容したのか書きまとめる。</p>	<p>・同じ作者の作品を重ねて読むと、自分がとらえた作者の見方・考え方を深めることができるね。</p> <p>◇学習の流れ図やこれまでのポートフォリオを使って、自分の学びを振り返っている。</p>	<p>◆ポートフォリオ分析</p>	<p>1</p>

## 5 本時

「海の命」と「山のいのち」、「街のいのち」とを重ねて読むことでとらえた「命のつながり」の中身について聴き合い、立松和平の「命」に対する見方・考え方を深める時間 (9/10)

## 6 本時の目標

- 立松和平の「いのちの絵本シリーズ」に興味をもち、「山のいのち」や「街のいのち」を文章構成や人物設定の意図、主人公の変容に着目して読むことができる。(学習指導要領から)
- 「海の命」以外の立松和平の作品を読んで、「海の命」でとらえた作者の「命」に対する見方・考え方と共通するところやつながるところを聴き合い、彼の「命」に対する見方・考え方を深めることができる。(テーマから)

## 7 本時の授業仮説

「海の命」以外の立松和平の作品に触れ、それぞれがとらえた「命のつながり」の中身を聴き合う活動を設定し、教科書教材「海の命」でとらえたことを見直すポートフォリオ評価を取り入れていけば、立松和平の「命」に対する見方・考え方を深めることができるであろう。

## 8 本時指導の考え方

### ○本時のねらい

本時は、「海の命」やそれ以外の立松和平の作品を読み、共通点やつながるところを見付け、「海の命」でとらえた「命のつながり」の中身を詳しくし、立松和平の「命」に対する見方・考え方を深めていくことをねらいとしている。

前時までに子どもたちは、立松和平の「いのちの絵本シリーズ」に出会い、「立松和平は『命』に対してどのような見方・考え方をもっているのだろう。」という学習問題をつくっている。まず、「主人公太一はこれからどう生きていくのだろう。立松和平は『海の命』の中で、『命』に対してどのような見方・考え方を伝えているのだろう。」という読みのめあてのもと、教科書教材「海の命」を読み、主人公太一の生き方をとらえ、「命のつながり」という作者の「命」に対する見方・考え方を見付けている。そして「山のいのち」「街のいのち」を重ねて読み、「命のつながり」の中身をフリップにまとめている。

本時では、それぞれの作品で書かれている「命のつながり」の中身を聴き合い、その後もう一度教科書教材「海の命」を振り返り、「山のいのち」「街のいのち」で書かれていた「命のつながり」の中身がそこではどのように書かれていたのか確かめていくようにしたい。さらに、「海の命」「山のいのち」「街のいのち」は、自然の命から元気付けられたり、成長させられたりする人間の姿が書かれていることや最後には人と人とのつながりが生まれているところに注目させ、「命のつながり」の中に人間もいること、人と人との「命のつながり」の大切さにも気付かせていきたいと考える。

### ○交流活動の工夫について

本時では、作品ごとの代表児童の発表に対して質問や確かめをしていきながら、「海の命」「山のいのち」「街のいのち」の共通点を見いだし、立松和平の「命」に対する見方・考え方をとらえる場にしていきたい。事前に、全員が「山のいのち」「街のいのち」の両作品を読んでおき、話のあらすじや登場人物については確認しておく。交流活動で使うフリップは、主人公の変容、その要因、命のつながりがどう書かれているのかという観点で作成し、どの作品も同じような観点で比べることができるようにする。また、これまでの国語の学習で学んだことや他教科でつながるところを、ポートフォリオを使って説明し、自分の考えを分かりやすく伝えるための手立てとする。

### ○評価活動の工夫について

聴き合い活動を通して友達の考えのよいところに触れることで、自分の考えマップに付加したり、修正を加えたりする。また、これまでのポートフォリオを振り返り、自分の学習前の「命」に対する見方・考え方と比べて、自分の見方・考え方の変容をとらえ、自己評価カードを書くようにする。

#### ・規準に満たない子への支援

二つの作品の文章構成や人物設定、主人公の変容などをとらえる際には、事前に確認し、本時に臨めるようにする。また、聴き合い活動については、質問や確かめのポイントを掲示したり、相談活動を取り入れたりして、どの子も積極的に聴き合い活動に取り組むことができるようにする。

## 9 準備

学習の流れ図、フリップ、授業用資料、ポートフォリオ、自己評価カード

10 本時の展開

学習活動と内容	教師の支援	評価基準		資料
<p>1 これまでの学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。</p> <p>○ 「立松和平は『命』に対してどのような見方・考え方をもっているのだろう。」という学習問題をつくり、「海の命」を読んで、そこに書かれている「命」に対する見方・考え方をとらえそれを深めるために、「山のいのち」「街のいのち」を読んだこと。</p>	<p>○ 掲示物やポートフォリオを使って、これまでの学習を振り返る。</p> <p>○ 聴き合う必要感をもたせ、本時の学習のめあてをつかむことができるようにする。</p>	基準A	基準B	学習の流れ図
<p><b>学習問題：</b>立松和平は「命」に対してどのような見方・考え方をもっているのだろう。</p>				
<p><b>本時のめあて：</b>「命のつながり」とはどんなつながりなのか聴き合い、「命」に対する見方・考え方を深めよう。</p>				
<p>2 全体での聴き合い活動をする。</p> <p>(1) 代表児童による提案を聴き合う。</p> <p>○ 「命のつながり」の中身がどのように書かれているのか。</p> <p>○ どの叙述を根拠にしたのか。</p> <p>(2) 代表児童の考えのよさを取り入れ、自分の考えを見直す。</p> <p>(3) 3つの作品の共通点を見いだす。</p> <div data-bbox="175 1041 614 1227" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;共通点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然の命によって人間は癒されている。</li> <li>・最後には、人と人とのつながりが生まれている。</li> </ul> </div> <div data-bbox="151 1272 630 1462" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;立松和平の命に対する見方・考え方&gt;</p> <p>○ 「命のつながり」の中に自分もいる。</p> <p>○ 人と人との「命のつながり」も大切にしたい。</p> </div>	<p>○ これまでの学習や前単元の内容をポートフォリオを使って振り返り、それぞれの発表の中身が深まるようにしていく。</p> <p>○ 板書から考えの関係をとらえさせる。</p> <p>○ もう一度「海の命」を振り返り、他の作品と重ねて読むことで見えてきた「他に命を与える」、「自然が命の源」という視点が「海の命」ではどう書かれているのか探していくようにする。</p> <p>○ 文章構成や人物設定の共通点から作者の見方・考え方についてさらに考えさせる。</p>	<p>・自分がとらえた作者の見方・考え方を友達に分かりやすく伝えたり、相手の考えをよく分かろうと進んで尋ねたりして、よさを見付けることができる。</p>	<p>・自分がとらえた作者の見方・考え方を友達に伝えたり、相手の考えを尋ねたりして、違いに気付くことができる。</p>	フリップ ポートフォリオ  授業用資料
<p>3 本時のまとめをする。</p> <p>○ ポートフォリオを使って振り返り、自己評価カードを書く。</p> <div data-bbox="151 1601 917 1982" style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px;"> <p>&lt;本時で目指す子どもの姿&gt;</p> <p>僕ははじめ、作者は「命はつながっている」と見ていたと思っていました。でも聴き合って「つながっている」とは、「他に命を与えること」や「自然が命の源」という意味だと分かりました。それは、○○さんの考えを聴いて、どの作品にもその視点が入っていることが分かったからです。立松和平のいのちシリーズは、自然の命が人間に影響を与えているところが共通していました。それは、作者が「命のつながり」の中に人間もいることや、人間同士のつながりの大切さを伝えたかったからだと思います。</p> </div> <p>4 次時の学習を知る。</p>	<p>○ ポートフォリオを使って振り返り、自己評価カードを活用させる。</p>	<p>・作者の「命」に対する見方・考え方を統合的にとらえ、自分の見方・考え方を深めている。</p>	<p>・自分の考えに足りないものを付け加えて、深めている。</p>	自己評価カード
<p>基準Bに達しない子への支援</p> <p>・板書を工夫したり、聴き合いをする際の視点や聴き方が分かるような資料を用意したりして、聴き合い活動を進めることができるようにする。</p>				